



『本屋、地元に生きる』
KADOKAWA 一六五〇円
栗澤順一 著

まちの本屋

多くの方が似たような記憶をお持ちだ
と思う。高校生の頃、学校帰りに時々町
なかの小さな本屋さんに寄った。たいが
いは立ち読み。ハタキをかけられるなん
ていうことはなかった。これみよがしに
難しい本を取り出し、すぐに戻す。



あの本屋さんは今はない。
総書店数のピークは一九八八年頃、二
万一〇〇〇店。直近では一万ちよつと。無
書店自治体は四五六市町村。

さわや書店

つい最近、著者栗澤さんの話を聞く機
会があった。懇親会で会話し、紹介したい
と思った。それからこの本を買い、書評
に取り組んだ。話の順序から言つて、こ
の書評のお勧めは、本書を読むこともさ
ることながら、まず、地元の本屋さん
に行つて、何か本を手にとつてもらうこと。
本書でなくともいいし、場合によつて
は、その本屋さんでパッケージをプロデ
ューズしたお醤油を買つて帰るのもよし
(このなぞなぞの答えは本書を参照)。
著者は岩手県盛岡に本店のある「さわ
や書店」の現役書店員。さわやは書店業
界では知らぬものがないほど有名な本
屋さん。POP広告の手法などを広めた。

地元で生きる

書評子は偶然が重なつてさわや書店の
岩手県釜石の支店を訪ねた。確かにPOP
Pがすごい。棚の構成も特徴があつて、
東日本大震災のコーナーは現在も充実し
ていた。売り場の工夫だけでなく、著者
の書店員としての仕事は、本屋を場とし
て、そこに集う人をつなげる仕事のように
だ。震災後、再開した店舗に、客同士が無
事を確かめ合う光景がたくさん見られた。
すぐに盛岡で「いまこそ、被災地に想
いを！」という連続講演会を開いた。「地
元に生きる」ことを具体的に。

実は、書評子が著者の話を聞いたのは、
鳥取県米子にあるNPO法人「本の学
校」の東京での催し物の席上だった。こ
のNPOの副理事長はかつて自治労村職
の委員長だった人。彼自身の「地元で生
きる」活動でもあつたわけだ。

評者 菅原敏夫 本誌編集委員

グラビア	地域を支える人 新谷知美さん・北海道増毛町	1
発掘!地域の希望のタネ	〈ほりにし〉和歌山県かつらぎ町	5
給食のじかん	〈すっぽんとどじょう給食〉大分県宇佐市	佐藤はるみ 6
書評	栗澤順一 著『本屋、地元で生きる』	菅原敏夫 8
焦点	岸田政権の総括と石破新政権の直面する課題	松田京平 10

特集 ネイチャーポジティブによる
生物多様性保全

ネイチャーポジティブをめざす世界の潮流	香坂 玲	16
日本国内における ネイチャーポジティブとOECMの現状	小林 誠	25
「かめやま生物多様性共生区域認定制度」 を通した農林産品のブランド化—亀山市	上野篤史	32
自然共生サイト登録を活用した取り組み —北海道黒松内町	高橋興世	38
被害を軽減し、野生動物と共生する政策は? —地域政策としての獣害対策を考える	山端直人	45

あの時、私の職場では 自治研活動 レポート 最終回	コロナ禍前後で生じた大きな変化	加藤淳子	54
	参加型自治研究集會をめざす! 「人口が減る時代の新しいまちづくり」—長崎県本部 自治研セッション	本田恵美子	58
しまね自治研 記録	「1%の仕事」	前田 真+西村佳哲	60
	「自治の作り方・育て方」	前田 真+藤井誠一郎+西村佳哲	
	セッションを聞いて	大木 恭+織戸智奈美+夏秋俊男	
	機関誌案内		72
	『月刊自治研』2024年総索引		73
	次号予告・編集部から		80